

全国国立大学図書館長会議開かる

本年度の館長会議は、名古屋大学を会場として、6月20日より3日間にわたって開催された。昨年までは館長会議とともに、文部省主催の研究集会在開催されていたが、本年度からは、研究集會じたいも館長会議が主催することになったことが、本年の新しい試みであった。

本年からは、新しく発足した北見工大も加わり、参加館は74館になった。それに例年の通り琉球大学も、オブザーバーとして遠路参加された。

第1日は午前中の委員会のあと、13時から開会、一般報告、各種委員会報告があった。このうち、相互協力活動委員会は近畿地区が担当してきたので、本館から報告を行なった。

第2日午前は研究集會で、本年は館長会議の組織強化について討論した。ここで出された意見をもとに、組織強化に関する特別委員会を設けることになった。午後は各地区から提案された議題を、予算関係、人事関係、奉仕関係の3つに大別し、3つの分科会を作り、分科会ごとに討論した。

第3日目は分科会の報告と、各種の表彰および全体のとりまとめが行なわれ、指定図書費、図書館維持費の増額、図書館職員の増員問題等について、それぞれ関係方面に要望することになった。

本年の館長会議でとくに印象的であったのは、図書館問題の解決について、自主的に解決していこうとする姿勢が強く打出されたことであった。従来のやり方を一変したので、会議が混乱することも予想されたが、それをよく克服しえたのも、自主的な姿勢の強化であったと思う。

資料

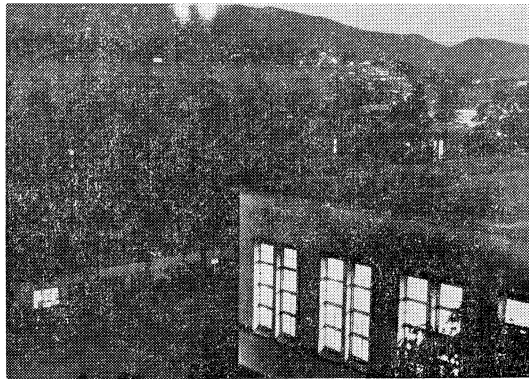
○ 教 官 文 庫

前号に引続き学生諸君の利用を待っている、最近着の教官文庫を紹介する。

- 「家族法判例集成」 太田武男編（人文科学研究所助教授）京都大学人文科学研究所）昭39刊 700P
- 「大学教育と数学」 森 毅著（教養部助教授）総合図書 昭42刊 287P
- 「環境の衛生学」 庄司 光著（工学部教授）光生館 昭42刊 369P
- 「都市交通と都市計画」 米谷栄二（工学部教授）加藤 晃共著 技術書院 昭42刊 111P

○ 学内学生団体よりの寄贈

本学には学生のサークル活動が数多くあり、スポーツ、学習、趣味などを通して、より実り多い学生生活がめざされているが、最近、それらのサークルの一つである鉄道研究会より、その研究発表誌たる「京都大学鉄道研究会雑誌」（1961～1965）が寄贈された。同研究会では、今まで雑誌は西部のボックスにおいてあったが、いつの間にか紛失したり、汚損したりするので、今後はその1部づつを図書館に製本して寄贈し、もって京都大学の続く限り全学



たそがれ時の閲覧室

の共有物として保存され、利用されることを期待して寄贈したということであった。この他、「京大俳句」「京都大学山岳部報告」京大探検部の「探検」、京都大学新聞社（学生団体）の「京都大学新聞」が寄贈されている。図書館としては、これらのサークルから継続して寄贈されなければ整理が不能であり、また、サークル誌を刊行されればどのサークルからも寄贈して頂くことを期待している。

ニ ュ ー ス

大閲覧室の冷房はじまる！

本館では大閲覧室で夏期にも快適な学習、読書の時間をすごして頂こうと、冷房設備の施工を急がせてきたが、いよいよ7月から運転を開始する準備がととのった。勿論潤沢に予算がある訳ではなく、どれほど快適度が増すかということは、一度来て見て頂いてのお楽しみというところだが、館としては少しでも快適になるものと信じている。なお、この冷房装置の取付け工事中、長期にわたり、大閲覧室利用者の方々に多くの迷惑をおかけしたことをこの紙上よりお詫びしておきたい。

展 観

○ エーリッヒ・ケストナー：その生涯と作品展

去る6月5日から2週間にわたって、ドイツの作家エーリッヒ・ケストナー(Erich Kästner 1899～)の著書約200点および、生涯の各時点における彼の写真を、本館陳列室において展観に供した。この展観は、本館の主催となっていたが、京都ゲーテ研究所と、日独文化研究所の後援によっておこなわれたものである。ケストナーは「ファビアン」(1931)で知られる諷刺作家で、現代のヴォルテールと称する人もある。

○ 世界理工学図書・雑誌展、日本理工学図書展 7月の6日から8日にかけて、出版文化国際交流会と本館の主催、外務省、文部省、京都新聞社の後援で、上記の展観が開催された。世界理工学図書・雑誌展の方に参加している国は、ベルギー、ノルウェー、西ドイツ、東ドイツ、ハンガリー、インド、イタリア、オランダ、フランス、ルーマニア、ソ連、スエーデン、スイス、英国、米国、アルゼンチンと、西欧、東欧を網羅し、図書も3,500点が展示され、それに日本のもの1,000点が加えられて非常に盛況であった。

あ と が き

長い日照りのあと、7月になってやっと梅雨にはいったのか、よく雨がふり、雷がなります。しかし、間もなく、青い空に雲の峯が立つことでしょう。本号の表紙も、涼を呼ぼうと、こんな色にしてみました。

図書館大閲覧室にもおくれればながら冷房がはいりましたが、何しろ建物の方が戦中派なので、窓枠などが20年の風雪に痛み、折角の冷気をのがさなければよいかと祈る次第。学内・外でたかまる図書の相互利用（他学部の人が、他学部の図書を使うこと）について、京大内部の実情を調べましたので、この一覧表について、あるいは相互利用をやってみられてお気づきの事がありましたらカウンターまでおしらせ下さい。

いよいよ夏休みです。海べで松の梢をすぎる風の音を聞きながら、また山小屋の窓辺で夕日をあびてなど、どうぞ読書をお楽しみ下さい。